

内部環境監査とは？

看護学部 中本 稔
(山口県内部環境監査員)

ヘルスプロモーションの考え方(藤内51997)



まちづくりのポイント

生きいきと暮らしていける

自己実現 地域社会(職場も)での居場所、役立ち感
生涯現役 老若男女 障害有・無 生産・消費

このまちが好きだ

まちをよく知っている

愛する家族・仲間がいる

安心・安全 便利

事故・犯罪予防 バリアフリー 集まり動き

健康づくりは、まちづくり、まちのこし

今、なぜ環境マネジメントか？

ISO14001認証は、時代のトレンド？
「持続ある発展」にどう寄与するのか。

環境を守るために、私は、そして、
あなたは何をする？

EMS(ISO14001)を見てみると

4. 環境マネジメントシステム

4.1 一般的要求事項

4.2 環境方針

4.3 計画 Plan

4.4 実施及び運用 Do

4.5 点検及び是正処置 Check

4.6 経営層による見直し Action

4.5 点検及び是正処置 Check

4.5.1 監視及び測定

4.5.2 不適合並びに是正及び予防処置

4.5.3 記録

4.5.4 環境マネジメントの監査

EMSが確立された中で「活躍」する
現在のところ県立大学には4人(?)

内部環境監査員とは？

EMSでは、独立したチーム
例 呉大学の構成図 実は山口県も同じ
武蔵工大は学生も入る？
知事に「不適合だ！」と言える。

構成員でもあるから実状知ることができる。
同僚として説明責任果たせる？

環境監査の定義（ISO14001）

特定される環境に関わる、活動、出来事、
状況、マネジメントシステム、または
これらの事項に関する情報が**監査基準**
に適合しているかどうかを決定するた
めに監査証拠を客観的に入手し評価し、
かつ、このプロセスの結果を依頼者に
伝達する、体系的で文書化された検証
プロセス

なぜ環境監査を行うのか （ISO19011）

EMSの運用を分析し、
改善のきっかけを与えてくれる
マネジメントツール

不適合の発生とは？

- ◆ 4.5.1 監視及び測定
構成員すべてが鍵となる特性を特定し、
定常的に監視・測定する(手順を文書化)
監視機器、プロセスの記録、記録の保持
環境法規制を遵守していることを定期的
に評価する文書化した手順
日常の業務の中、または、監視測定で
不適合が生じることがある

不適合とは？

要求事項を満たしていないこと

要求事項とは？
EMSで定めた「私たちはします」
経営層が実施すべきこと
組織の業務手順として定めること

不適合の発生

日常業務の
運用管理 日常業務の
監視、測定 内部監査

不適合の発生

取り扱い調査

影響緩和の処置 是正および予防処置

4.5.2

不適合並びに是正及び予防処置

不適合の定義

法規制違反、不安全、手順書違反、
不良品の発生など
不適合が発生したら
その取り扱いを調査
環境影響を緩和する処置
是正および予防処置に着手
ここ4.5.2で手順を明確にしておく

4.5.3記録

(評価には記録が大事)

組織に関する記録
本来業務(オペレーション)に関する記録
コミュニケーションの記録
法律やその他の要求事項に関する記録
ISO14001で要求されている文書や記録類

4.5.4 環境マネジメントシステムの監査

定期的EMS監査のプログラムと手順を示す
山口県EMSでは(資料参照)
目的、適応範囲、基準、監査の組織
計画、実施、指摘事項、監査報告・記録
完了

監査の原則

- a) 倫理的行動
- b) 公正な報告
- c) 職業専門家として正当な注意
- d) 独立性
- e) 証拠に基づくアプローチ

適合性評価の方法

- 1) ISO14001規格の逐条チェック
- 2) 主要なEMSの手順(書)を確認
- 3) 業務(環境記録を含む)の不具合から、
本来業務の手順書(=EMS)の不適合を
確認し、改善の提案も
- 4) 上記の組み合わせ

さて、もう一度、不適合とはなんだろう？

不適合のレベル

重大な不適合

EMSの有効性が認められない

軽微な不適合

要求事項が部分的に欠落または実施ない

観察事項

当面支障ないが、改善望ましい

内部監査活動

監査の準備

文書レビュー、計画作成、作業文書作成

監査活動

初回会議、情報収集と検証、監査所見

チーム会議と監査結論、最終会議

監査後の活動

報告書の作成、完了、フォローアップの実施

内部環境監査の着眼点

EMSを改善するネタ探し

日常業務の生産性を向上するには

どうすればいいかという視点

省資源、エネルギー削減、

有益な環境影響を産む製品化、サービス化

評価や監査が業務の足をひっぱるのではない

EMSを確認し、業務にお墨付きを与える

環境側面と環境問題

著しい環境リスク

= 著しい環境影響(負荷)

著しい環境影響の原因(日常業務にある)

= 著しい環境側面

環境側面と環境問題は「原因」と「結果」

要求事項としてEMSではとりあげられている

グループワークでは

県立大学のEMSをつくってみよう

できるかぎり限定した範囲(場所選び)

大学構成員の日常活動から

どんな環境側面から環境負荷が予想されるか。
それがどう予防され、測定されるか。

1日、1週間、1年間の

業務(Flow)と成果(Output)を予想しながら

著しい環境側面を想定してみよう。

最後に

7月のまとめ

(発表とレポート) = 県立大学EMS

につながる議論を

講義の最後に安溪先生から

アナウンスあります